

特集

## 義和団百年と現在

「義和団百年」の特集にあたって…………… 1

座談

### 義和団への視座

——愛国か排外か——

●佐藤公彦×路遙×P・A・コーエン×馬場毅…………… 5

座談

### 中国の国家と秘密結社

●小島晋治×小林一美×孫江×馬場毅…………… 61

論説

義和団運動、義和団戦争に関する四つの問題 ●小林一美…………… 25

笹森儀助再論

——義和団戦争時期の朝鮮・ロシア・中国視察を中心に—— ●飯島涉…………… 45

梁啓超と義和団運動二題 ●郭世佑……………85

義和団運動時期における直隸省のカトリック教徒 ●M・バステイド……………123

帝国から民族国家へ

——清朝末期農村の衝撃、支配と自治「梨園屯争議の歴史叙述」—— ●張広生……………157

小特集

東亞同文書院百年

東亞同文書院中国調査の評価と分析 ●馮天瑜・劉柏林……………191

中国保全論の「オリエンタリズム」と中国イメージ

——東亞同文会の「まなざし」と義和団事件—— ●久保田善文……………209

一般論説

法輪功事件の政治過程 ●坂田完治……………231

## 天南地北

学生にできることを求めて

— 日中の記憶とPPMの活動

285

『青春の中国— 甦る東亜同文書院生の夢』  
を追って

海老名敏宏

288

## [表紙絵紹介]

## 「童年シリーズ No. 88」

新しい芸術言語と様式の形成は、常に複雑で矛盾に満ちた環境のもとで行わなければならない。これはただ単に冒険する勇氣を必要とされるだけでなく、さらに芸術に対する鋭い感性と洞察力をも求められている。最近の作品は、主に個人の差異を主張するものである。子供というイメージを用いたのは、決してただ単に新しい芸術様式を確立するためではない。それは同時に挑発的な姿勢を避けるためでもある。つまり、いかなる集団の代弁者にもなりたくないのだ。集団よりも、個人の運命にずっと関心を持っている。この「童年」シリーズでは、いくつもの似たイメージが重なり、平面的で放散的な無重力の空間の中で浮遊している。複合、誇張、そして重複といった手法を通して、個人を平均化し、そして彼らを支配しようとするさまざまな主流言説および主流集団に異議を申し立てようとする。



姜 建敏 [Jiang Jianmin]

1959年7月生まれ、中国上海市出身。82年上海師範大学美術学部に入學、卒業と同時に現代アートの活動を開始。86～89年、アメリカ、イタリア、デンマークなどでグループ展に出品。90年来日、名古屋芸術大学で西洋美術を研究する。その後、日本現代芸術グループ美術文化協会の会友となり、日本の現代アーティストたちと共に精神的な芸術活動を行なう。作品は主に人間と自然の関係をテーマにしているが、最近では氾濫する情報に埋め尽くされる現代社会に生きる、平均化されつつある

個人々の運命に深い関心を持っている。作品は油絵、オブジェ、コンピュータグラフィックなど多岐にわたる。93年以降、毎年東京都美術館、愛知県美術館でグループ展に参加し、「中日新聞賞」「ナゴヤタイムズ賞」など数多く受賞。また『中国美術報』『江蘇画刊』『解放日報』また『毎日新聞』『中日新聞』など中国と日本で数多くの雑誌・新聞で紹介され、その鋭い感性と優れた表現力は高い評価を得ている。